

「感じる力」と「想像する力」 を大切にしよう！

宮城県田尻さくら高等学校 校長 遠藤 浩

宮城県の「魅力」と「強み」・・・それは「感じる力」と「想像する力」が磨かれることだと思います。

振り返ってみると、それぞれ大なり小なりの事情や関係性を抱えながら毎日懸命に登校する生徒、子どもの成長と健康、幸せと安全、朝晩の笑顔を願っている保護者、歴史や文化や信頼を背負い、堅実に社会貢献を重ねる地域の方々、こうしたコミュニティの心を「感じ」、思いを「想像する」ことが、仕事のモチベーションにつながっていたと思いますし、もちろん現在も進行中です。

社会人としての「ビジネス力」、教育のプロフェッショナルとしての「専門領域を教える力」と比べて、少々質が異なる「感じる力」と「想像する力」は、一朝一夕に身につくものではありません。私自身もまだまだ途上であると思いますが、教員として一步一步、着実に向上できる宮城県の環境に心から感謝しています。

以下、私が経験した学校のうち、いくつかの学校を紹介しながら、宮城県の魅力について発信します。

志津川高等学校



「明日につながる 希望の架け橋」をキャッチフレーズに連携型中高一貫教育を実践しています。

初任地は「海・山・里・人」が絶妙のハーモニーを奏でる南三陸町(旧志津川町)の志津川高等学校です。

高校卒業後は遠洋漁業に従事する生徒、民間企業に就職する生徒、あるいは大学に進学する生徒など、地域のほとんどの生徒が在籍する「町の拠点」の学校で、たくさんのことを学びました。町

の皆様、卒業生の皆さん、ありがとうございます。一人一人を応援する中で、「海の心」「山の心」「里の心」そして町の皆様の「温かさ」を肌で感じました。

また、素人で硬式野球部顧問となりましたが、目の前の仕事に追われて狭くなりがちな視野を広げる、最高の機会をいただきました。

大震災後は、「海・山・里・人」の温かなバランスが一変し、私も大きなショックを受けました。言葉を失いました。

現在は、志津川高校の卒業生が高校の教員として、あるいは町の職員として、また商店街など街づくりの中心として、明るく前向きに頑張っています。復興のシンボルとしての志津川高校の益々の発展を心から応援しています。

頑張れ！志高！



校舎から見える町の復興状況です。新しい町づくりが進んでいます。



志高生と台湾の高校生との交流の様子です。

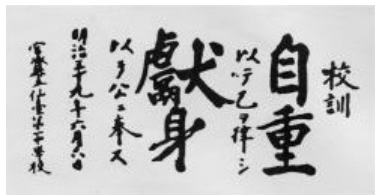
仙台第一高等学校

志津川高校、泉松陵高校の次に勤務した仙台第一高等学校では、校訓、標語、校歌、校章、歴史、勉強、授業、部活動、行事等々、全てが人材の育成につながっている学校です。

私自身も文武両道、国語は教材開発、野球は社会貢献と働き方を伝える場、毎日が真剣勝負でした。国立二次

試験や教科領域横断的な小論文に至るまで、授業、問題作成、採点、添削の連続でしたが、生徒と個別に接していく中で、生徒自身を「感じる力」、「想像する力」の大切さを痛感する場面が数多くありました。

保護者の皆様や同窓生の皆様に支えていただき、充実した仕事ができたと感謝しています。



「自重献身」明治39年に制定された校訓です。

古川黎明中学校・高等学校



平成25年7月に完成した、とても素敵な校舎です。

震災直後ですが、古川黎明中学校・高等学校に勤務しました。古川女子高等学校の精神を受け継ぎ、公立で県内初の併設型中高一貫教育校となった学校です。平成24年度からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けましたが、その指定に向けた仕事に携わることができました。

大崎地区には「大崎の子どもは大崎で育てる！」という「魂」と「風土」があり、今後ますます充実、発展し続けることと思います。

また、大崎地区の校長会が中心となって、毎年「若手教員フォーラム」を単独実施しているのも、大崎ならではの「気概」の現れだと思います。

田尻さくら高等学校

現在勤務している田尻さくら高等学校は、単位制二部制の学校で、多様な生徒が在籍しており、毎日1～10時間目まで授業を行っています。陶芸、茶道、中国語、ハングル、福祉といった特色ある科目を開設しています。社会人の科目履修生(平成29年度は82名、平均年齢67歳)も高校生と同じ授業を受講しており、生涯学習も推進しています。

生徒一人一人の背景が異なることが

ら、職員一同、その課題解決に向けて、まさに「感じる力」と「想像する力」を日々フル稼働させて、指導や支援に当たっています。また、心理・福祉などの「専門スタッフ」、「学校支援スタッフ」、「学校外の機関」との連携により、「チーム学校」としてフォローアップを図っています。

本校の紹介として、平成28年度卒業式保護者代表の言葉の一節とチャレンジ講座を受講している社会人科目履修生の感想を掲載します。ご一読ください。



平成20年4月開校、今年で10年目を迎えます。夕方、虹がかかった校舎の写真です。



想い出遠足。被災地訪問で女川町を訪れました。



少人数の授業展開です。社会人の科目履修生も一緒に学んでいます。

◆平成28年度卒業式 保護者代表 御礼の言葉より

私事ながら振り返れば、中学2年の頃から学校を休みがちになった娘は、新人戦に出場した後からは、いわゆる「保健室登校」が常となりました。高校進学はもちろん学業継続への危機が続く毎日は、親としてもその対処に方図を失い、自責の念に苛まれる日々でした。

そんな中で紹介された「田尻さくら高校」への体験入学は、娘にとっても親にとっても希望への転機となりました。迷うことなくⅡ部に入学してからは、学校生活の楽しさや学習内容の面白さを語るようになり、友人たちにも恵まれるよ

うになりました。親にとっては、この4年間の送迎は娘の日々の成長を見届けるとても大切な時間でもありました。

中学時代に諦めかけていた、人が大人になる前に必要な様々な体験を、この学び舎で得ながら、娘は今日ここに確かな高校生活を全うすることができました。真に感激に堪えませぬ。ありがとうございました。また、娘と親交を結んでくださった友人や後輩の皆様にも感謝申し上げます。

◆平成28年度さくらチャレンジ講座 科目履修生の感想文集より

【書道】

高校生とコミュニケーションを図りながら楽しく書道の学習ができました。文房四宝の大切さから始まり、表現の仕方の奥深さを知ることができました。何より友達3人で通学できたこともいい思い出になりました。

【英語会話】

一年間楽しい講座ありがとうございました。カードやイラスト入りのプリントを使いながらグループ毎の英会話。70歳の私も楽しく学ぶことができました。

【器楽】

ピアノが弾けるようになりたい、という思いで器楽を選択し、通わせていただきました。今まで手にしたことのない楽器に触れたり、生徒さんと一緒に協力して演奏したり、一週間に一度の授業がとても楽しみでした。

【陶芸】

陶芸講座に参加し、若い学生とともに作業しました。子どもの頃に戻って学校に入ること、自分の人生がかかわってきています。平成29年度も参加したいと思っています。

誰かのために役に立っているという実感、社会に貢献できているという実感が、次の仕事につながります。皆さん、「感じる力」と「想像する力」を大切にして、「宮城県」の子どもたちのために、是非一緒に仕事をしましょう。